

人生100年時代を見据えて

三重県知事 鈴木 英敬

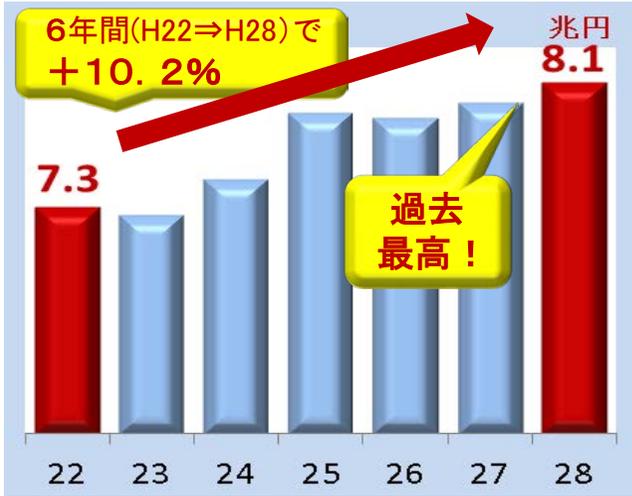


2018年9月21日

経済産業省 産業構造審議会2050経済社会構造部会

1.地域の豊かさ (1)三重県の経済状況と県民の幸福感

県内総生産(実質)

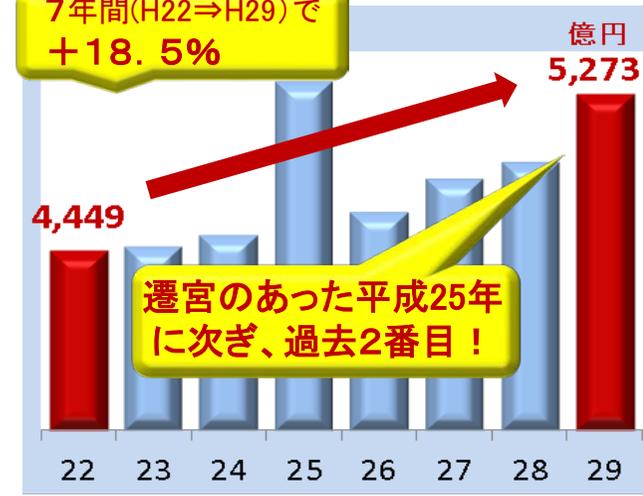


県民経済計算速報(三重県戦略企画部統計課)

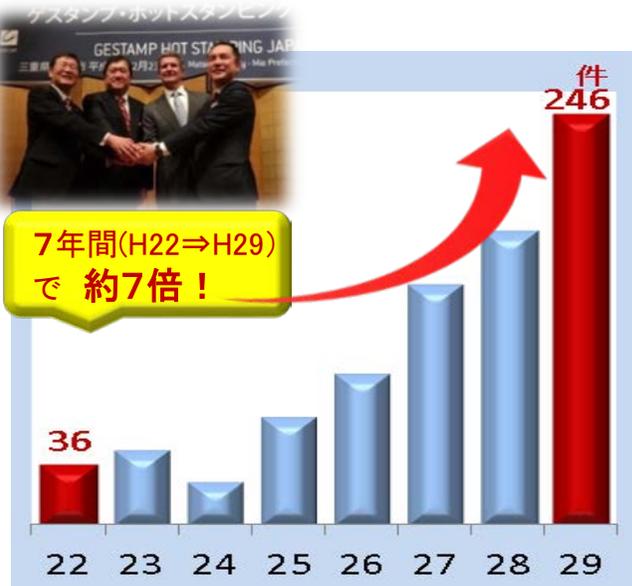
観光入込客数



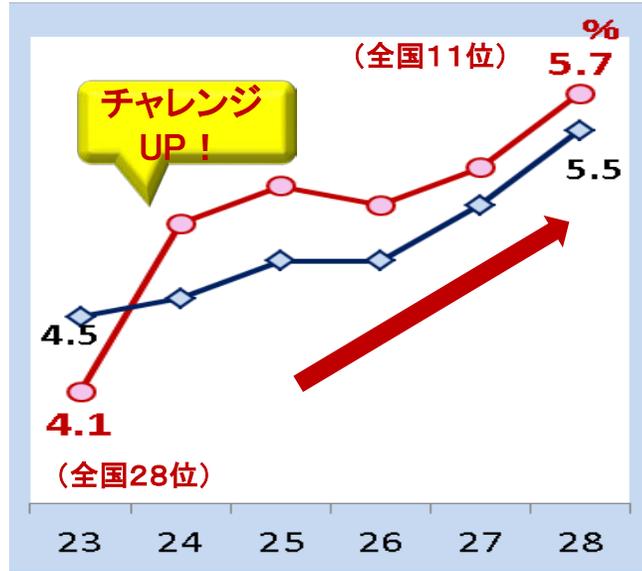
観光消費額



企業誘致



開業率



雇用保険事業年報(厚労省)より作成

県民の幸福感(10点満点)



みえ県民意識調査(1万人対象)

(2)三重県の住みやすさ

a life of abundance

1人当たり県民所得

356万円(3位)

平成27年度県民経済計算
(内閣府経済社会総合研究所)

1世帯あたり純資産

1,592万円(4位)

(出典:都道府県別統計とランキングで見る県民性)

生活全般の満足度

(3位) 2018年

将来の生活への不安

(感じていない)

(6位) 2018年

(株)三菱総合研究所 生活者30,000人対象
のアンケートパネル【ベーシック調査】

Health

健康寿命(女性)

76.30歳(2位)

厚労省科研費補助金「健康寿命における
将来予測と生活習慣病対策の費用対効果
に関する研究」2016年

悩みやストレスのある者の率

44.9%(4位)

国民生活基礎調査(厚労省)2013年

Work Life balance

平均労働時間

5時間48分(6位)

社会生活基本調査(総務省)2016年

語学教室にかける金額

5,319円(2位)

家計調査(総務省)2016年



工業生産額

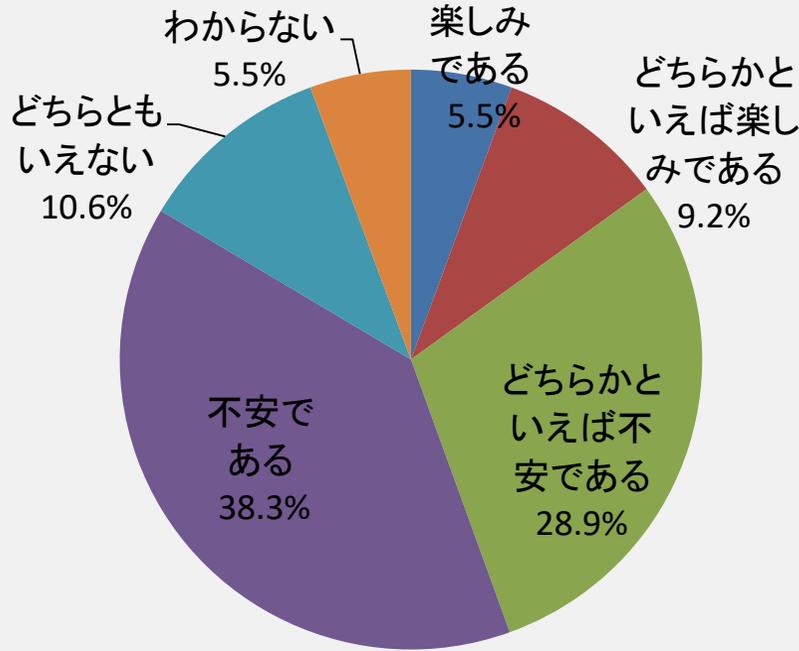
(生産年齢人口一人当たり)

1,026万円(1位)

2016年工業統計調査(経済産業省)を元に算出

2.人生100年時代に向けて (1)みえ県民意識調査

- ▶ あなた自身が**100歳まで生きる**ことについて、どう思いますか？

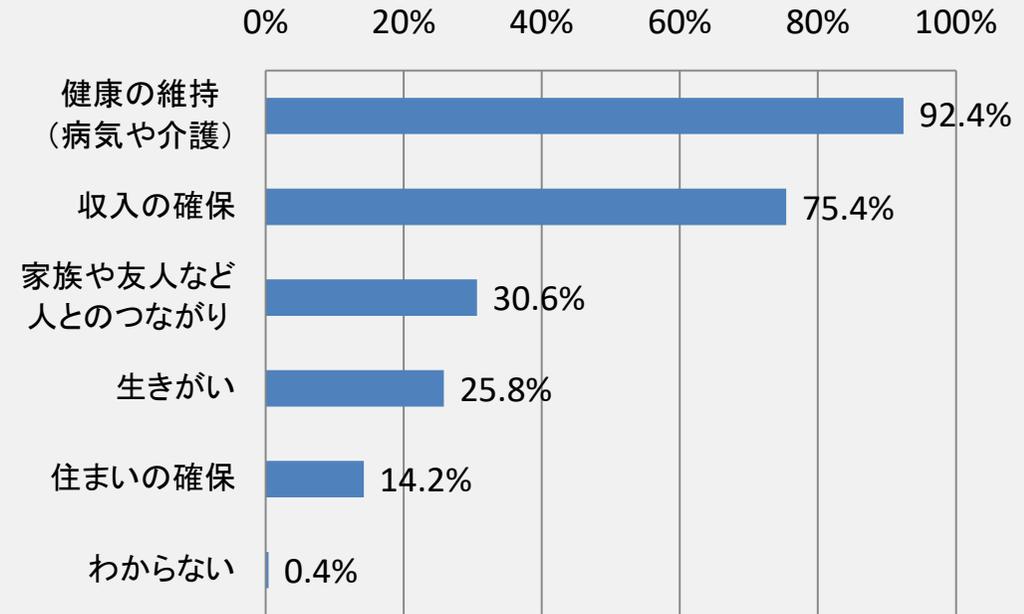


- ▶ 「**不安である**」が**38.3%**と最も高く、次いで「**どちらかといえば不安である**」が**28.9%**
- ▶ **不安を感じている人の割合は67.2%**

- (「不安である」、「どちらかといえば不安である」と回答した方への質問)

- ▶ あなたが**不安に感じる**ことは何ですか？

(複数回答可)



- ▶ 「**健康の維持(病気や介護)**」が**92.4%**と最も高く、次いで「**収入の確保**」が**75.4%**

出典：第7回みえ県民意識調査 標本数 10,000人、有効回答数 5,270人、三重県内居住の18歳以上を対象、
H30.1月～2月調査実施 <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/p0002900003.htm>

(2)生涯現役、生涯活躍の社会に向けて ～高齢者の活躍「介護助手」～

事業のねらい(三本の柱)

地域の元気に高齢者を「介護助手」として育成し、
介護職場への就職を支援

⇒介護人材の「すそ野の拡大」、「人手不足の解消」
「介護職の“専門職化”」

<事業概要>

- (1)事前説明会の開催(参入促進)
- (2)就労マッチング(就業支援)
- (3)職場OJT研修の実施(労働環境の整備)



「地域医療介護総合確保基金」
を活用した独自提案事業



1 介護職が本来の介護業務に専念!

- ・介護の担い手を増やす。
- ・介護職の労働環境が整備され、
介護職を専門職化することが可能に。

2 高齢者の社会参加・自己実現へ!

- ・住み慣れた地域で、自分に合った時間
に働ける新たな高齢者の就労先ができる。

3 一番の介護予防!

- ・働きながら介護を学び、現場を知る。

成果・事業実績

	H27	H28	H29
実施施設数	9施設	18施設	10施設
説明会参加者数	251名	226名	240名
採用者数 (3カ月のパート雇用)	57名	89名	48名
事業終了後の継続雇用者数	47名	81名	47名

●現場の声 (介護職員・施設)

- ・これまで以上に業務に集中出来る。
- ・時間的余裕ができる。
- ・利用者の満足度が上がった。

●現場の声 (介護助手)

- ・70歳と言えど、まだまだやれる自信がついた。
- ・人生に張り合いが出来た。
- ・役に立っているなど感じられ、やりがいがあった。
- ・働きに来ることで元気をもらえた。



波及効果

- ・他種施設への広がり → H29年度からは 特別養護老人ホームでも事業展開
- ・全国的な広がり → 25都道府県で実施 (*H304月現在 (公)全国老人保健施設協会調査)

(3) 生涯現役、生涯活躍の社会に向けて ～トリプルジェネレーション就労～

ジャパンマテリアル株式会社

創業 : 1997年

所在地 : 三重県三重郡菟野町(近隣に東芝メモリ四日市工場)

代表者 : 田中久男

従業員数: 1,000名(連結)、267名(単体)(2018年6月末現在)

2017年度当期純利益 : 4,100百万円 (前期比 34.4%増)

2018年度当期純利益※: 5,200百万円 (前期比 26.8%増) ※予想

- ◆ 田中氏は50歳で会社設立に参加
- ◆ 設立当初から、**定年制の概念なし**
- ◆ 株式上場後、6期連続で
増収増益中！

- 18歳の若者から、活気に満ちた40歳代、熟練技術を有している70歳代の3世代が喜びを分かち合いながら働ける「**Work-by 3G(トリプルジェネレーション)**」の実現を実践

【Work-by 3Gは企業理念。従業員の最高齢は79歳、従業員全体の11%が60歳超】

- 最近では、ベトナム人を技術者(正社員)として積極的に採用

**高齢者を意識して雇用しているという認識はない！
また、高齢者という言葉は自社内では一切使っていない！**
(高齢者 = 「ベテラン社員」)



代表取締役社長 田中久男 氏

- ・自社では、従業員が自ら引き際を決めるようにしている。逆に70歳を前に辞める場合は、社長の許可が必要。
- ・ベテラン社員は知識や経験をもとに組織内で活躍しており、若い従業員にも良い影響を与えている。
- ・ベテラン社員雇用の秘訣は、彼らを信じて任せること。むしろベテラン社員に働いてもらうことで助かっている。
- ・ベテラン社員は、働くことで健康を維持し、さらに元気になっている。

(4) 第四次産業革命とシンクロした働き方改革 ~次世代施設園芸モデル~

品種開発や高度栽培技術(浅井農園)と
ロボット等自動化技術(デンソー)を統合

両社の強みを活かし、生産性・収益性を向上

地域雇用の拡大、農業現場における働き方改革



2018年8月30日 安倍総理
浅井農園視察

株式会社アグリッドといなべ市の
農園開設に関する協定調印式



2018年9月20日 次世代型トマト生産施設
立地協定調印式(三重県いなべ市)

高度施設園芸技術



JV 新会社 株式会社 アグリッド

AFA-model

(Agri Factory Automation)

次世代施設園芸モデルの開発・実証



イメージ図(2019年度完成予定)
国内最大級
4.0ha

- ・生産規模: 4.0ha程度
- ・生產品目: トマト/ミニトマト等
- ・初期投資額: 14億円
- ・売上高約6億円、経常利益20%以上
- ・事業拠点: 三重県内
- ・事業開始予定: 平成31年夏ごろ

ロボット等自動化技術



ダイバーシティ経営を実践
正社員の平均年齢33歳
// 4人に1人が外国人
約8割が女性(パート雇用含む)

新品種開発技術

高度生産管理技術

全国流通チャネル

農作業ロボット技術

FA・自動化技術

物流・鮮度保持技術

マーケティング
品種選定

施設設計
資材調達

生産工程管理
ロボ・自動化

労務管理
業務改善

出荷管理
パッケージング

物流管理
鮮度保持

販売管理
プロモーション

(5) 第四次産業革命とシンクロした働き方改革 ～老舗食堂バックヤード～

有限会社ゑびや

創業:1912年

所在地:三重県伊勢市(伊勢神宮のおひぎもと「おはらい町」)

代表者:小田島春樹(1985年、北海道生まれ、前職はソフトバンク)

経緯

2012年 三重に移住。妻の実家が営む老舗食堂「ゑびや」を継承。

飲食店経営の厳しい現状を知る。老舗の要素を継承しながらも、「勘」ではなく「データ」活用による経営の必要性を実感。

試行錯誤しながら、画像解析AIなどのIoTツールを導入。



ゑびや(伊勢市)

画像解析AIやビッグデータの活用

生産性向上

来客予測

曜日、天気、過去の時間帯別来店データ、地域の宿泊施設の宿泊者数データ...
200種超のデータを収集・分析

的中率9割超



画像解析AI



画像データにより顧客属性や志向を分析。お土産の開発などにつなげている。

顧客の誘導

タブレットで厨房の状況を確認。店内の込み具合に応じて顧客を誘導



従業員の動線短縮



テーブル上の機器の倒す方向で顧客のリクエストを判断し、従業員の動線を短縮。

人員シフトの最適化

食品ロスを7割削減

1人当たり生産性が10倍

6年間で売上4倍

混雑時待ち時間の短縮
最大45分⇒10～15分

給料UP

人材の確保・定着

有休消化率80%

(6) 全ての世代が安心できる経済社会へ ～全国初の「子ども基金」～

子ども・子育て施策の現状

- 医療・介護の社会保険制度のように、**社会全体で支える持続可能性の高い制度がない。**
- 少子化対策をはじめ、子どもの貧困対策、児童虐待の防止、待機児童の解消、社会的養護の推進など、**課題は山積**しており、課題に向けた政策は、**成果が出るのに時間を要する。**



社会全体で
子どもたちを支援
する持続可能な財源
の確保が必要

全国初の取組

子ども基金を創設

- ・平成30年度から設置
- ・原資は法人県民税超過課税の税収

子ども基金 の対象

- ①生まれ育った環境に左右されず、貧困や格差を再生産させないための事業
- ②人生を豊かに輝かせるための基礎となる家庭教育、幼児教育に係る事業
- ③妊娠・出産、子育ての希望がかなうみえを実現するための事業



子どもたちが、未来に向かって、不安や葛藤を乗り越え、
チャンスをつかみ、希望をかなえるための挑戦を支援



(7) 全ての世代が安心できる経済社会へ ～ICT活用によるオンライン遠隔受診勧奨～

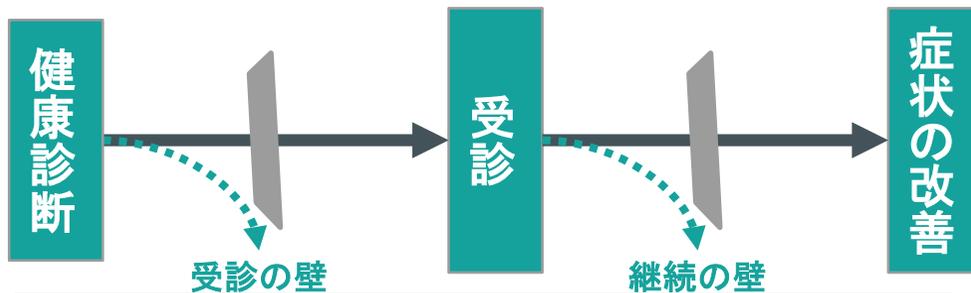
生活習慣病を取り巻く三重県の現状

1.健康診断・健康診査受診率 (H28)	69.9%	(全国平均 68.3%)	全国と比較して高い受診率
2.特定保健指導実施率 (H27)	17.5%		全国33位
3.糖尿病年齢調整受療率 (H26)	161.2人		全国1位

産業医等から健康指導を受けにくい中小企業の従業員を対象にモデル事業を実施

生活習慣病を発症する前に対策が打てれば十分に改善する余地あり！

生活習慣病重症化予防の壁と3つのカギ



壁を越えるための3つのカギ

リスクの認識

医療アクセス

動機づけ

リスクがよくわからない (たぶん大丈夫)

受診する時間がない (忙しいし...)

やる気がわからない (面倒だな...)

ICT活用によるオンライン遠隔受診勧奨モデル



体重や血圧などの生体情報と生活習慣をオンラインで事前に共有
医師-受診者間のコミュニケーションを深め、遠隔オンラインによる効果的かつ効率的な相談を実施

効果

健診

医療相談 (受診勧奨)

受診

治療・改善 (予防定着)

県民個々のリスクに応じ、治療・改善までをシームレスに対応できる体制